

なかがわ

広報

2016.

1



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.124

- 新年のごあいさつ 2
- 年おとご年おんなの今年の抱負 4
- 町・県民税(所得税)の申告はお早めに！ 6
- マイナンバーのお知らせ 8
- 平成28年度那珂川町臨時職員募集のお知らせ 18



初日の出

広報 展示室

第124回

企画展 開館15周年・那珂川町合併10周年記念 江戸名所と広重展

青木藤作(1870～1946)

は青木六良、ヨシ夫妻の三男として栃木県塩谷郡に生まれました。当地で青木家は名家として知られた家柄で、当時の多くの地主階層が肥料店を営んでいた様に青木家も肥料店を経営し財を成しました。

藤作氏は17歳の時に徳富蘇峰発行の『國民之友』の創刊号を読み深く感銘し、明治21年に東京の蘇峰の居宅を訪ね、面談し「理想を高くして、生活を低くせよ」など教えを受け、以降は蘇峰を師と仰ぎ二人の交流は藤作氏が亡くなるまで続きました。藤作氏の作品収集は蘇峰の影響が強く、郷土出身の荒井寛方、小堀鞆音や蒔絵、刀剣などの工芸品や歌川広重とその周辺の浮世絵、交流のあった川村清雄、久保田米僊などを収集していました。

この度は、青木コレクションの中から藤作氏が最も力を入れて収集した歌川広重・川村清雄の肉筆画を中心に優品を選び一端をご紹介します。

図の作品は一般に「天童広重」と言われる作品群のひとつです。嘉永初年に天童藩が広重に肉筆画数百幅を依頼し僅か1～2年で制作し、それを豪商、豪農に御用金の返礼として下賜した作品です。双幅は60両、90両、120両の3種類でしたが、三幅対は300両と御用金の金額も大きかったので豪商に下賜された作品でしょう。現在三幅対は12組が知られていますが、下賜された人物として判っているのは村井清七という人で、山形藩五大商人のひとりでした。「王子三幅対」は音無川の下流域を描いた作品で、右幅は金輪寺辺りで音無川を堰で水の勢いを弱めて滝のように流れている所、その下流は料亭街でした。中幅の不動の滝は正受院境内の音無川に面した場所にありました。左幅は湾曲した川に橋が架かり右端には弁財天が祀られた場所です。本作品



王子三幅対

はウィリアム・ビゲロー氏の所蔵でありましたが昭和8年に同氏の遺愛品として売り出された時に青木藤作氏が購入したと推測されます。

馬頭広重美術館 館長 市川 信也

【会 期】 1月16日(土)～2月28日(日)

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

1月16日(土) 午後1時30分～ 当館学芸員

【休館日】 月曜日、祝日の翌日

【入館料】 大 人 500円(450円)

高・大学生 300円(270円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

平成26年度 那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



入選「那珂川の夕景色」

撮影者：福田 英幸さん(那須塩原市)

※先月号の受賞作品名に誤りがありました。

正しくは「夕照」です。

お詫びして訂正いたします。

